

にん 忍をもつて よろい 鎧となす

今年もほぼコロナに終始した
一年だったように思います。現
在は 感染者が減少していると
はいえ、外国の感染増大や今後
のクリスマス・忘年会、年末年始
の人流の増加を考えると安心
できないようです。

さて、昨年・今年と「キレル」
と言われる事件が多くなってい
るように感じます。親や先生に
叱られてキレた小・中学生、ラ
インでキレた同級生、上司に
注意されてキレた社員、ただ理
由もなしに列車の中で「キレて」

人を刺し、火をつける等、「キレ
た」と思われるこの状態をコロナ
による はけ口のなさのせいだけ
にしているものでしょうか。
以前は、決断が速くてよく物
事を処理する頭のいい人を、
「あの人はキレル人だ」、「切れ者
だ」と呼んでいました。しかし、
今、使われている「キレル」はこの
意味ではなく、「堪忍袋の緒が
切れる」の「キレル」だそうです。
この 諺は、我慢に我慢を重ね
てきた怒りがもはや限界に達し
て、ついに爆発することをいいま

す。「堪忍袋」は、怒りをこらえ
て我慢する大きな度量を袋に
例えたのですが、現代人はその
度量が小さいのではないかと指
摘する人もいます。だから、簡
単に「キレル」のだというのです。
「忍をもつて鎧となす」
龍樹菩薩の『大智度論』の言葉
です。「忍」は忍耐で、忍辱とも
いいます。この文のあと、「禅定
(精神統一)をもつて弓となし、
智慧をもつて箭(矢)となし、そ
とには 魔軍をやぶり、うちには
煩惱の賊をほろぼす」と続きま
す。忍耐は禅定や智慧とともに
に、身を守る武器であるという
のです。それによって、外からの
誘惑や、内からの迷いに打ち勝
つことができるのです。「キレて」
しまうと、取り返しがつかない
ことになりかねませんし、後の
祭りです。あまり、簡単に「キレ
ない」ように、身を守る武器
(忍)を大切にしてください。
今年もさまざまながあ
りました。人生は順境ばかりで
はなく、悲しみをかかえるこ
とも、苦悩にまみれることもあ
ります。とはいえ、多くのいの
ちのつながりの中に生かされて
生きていることの有難さを感じ、
感謝の日々を送りたいものです。
仏さまのみ光を受けて、いの
ちが輝いていることを知れば、
自然にほほえみがわいてきます。
来年も笑顔で過ごせるように
心がけましょう。